

普及指導員調査研究報告書

課題名：各作物における施肥管理の改善

農林総合技術センター農業担い手支援部 就農・技術支援室

担当者氏名： 迫村達也、原川和彦

＜活動事例の要旨＞

施肥に関する過去の対応事例を整理するとともに、現状の各作物における施肥管理の改善を検討する。

1 普及活動の課題・目標

各地域における特定の作物について、施肥管理や土壌養分の実態を把握し、課題に応じた施肥改善を検討する。

2 普及活動の内容

(1) 肥料高騰対策の協議

肥料高騰にあたり、施肥改善策について各農業部担当と個別に協議した。

(2) 各作物における施肥改善の計画協議

担当者会議を開催し、「各作物における施肥改善」のねらいと基本的な進め方について共通認識を図った。各農業部の課題に即し、4農業部で実施していくこととなった。

(3) 取組み結果の検討

以下の課題（途中経過含む）について情報共有・意見交換を図った。

- ・「れんこんの収量向上に向けた緩効性肥料の検討」（岩国）
- ・「いちご育苗期における自動かん水・養液管理による良質苗の育成」（柳井）
- ・「新たに作付ける水稻品種の肥料検討および適正施肥量の確認」（山口）
- ・「ブロッコリーの土壌診断に基づく施肥改善」（萩）

3 普及活動の成果

(1) 肥料高騰対策

次年度、「肥料価格高騰に対応した施肥管理・環境に配慮した土づくり」を念頭にたい肥施用や緑肥の栽培実証等の実証を複数の農業部で実施していくこととなった。

ア「れんこんの収量向上に向けた緩効性肥料の検討」（岩国）

イ「鶏糞施用によるアスパラの化成肥料削減」（柳井）

ウ「小麦栽培ほ場におけるクロタラリアの実証」（山口）

エ「牛糞たい肥施用が水稻・小麦の収量、土壌養分に及ぼす影響」（美祢）

「せときらら の基肥を鶏糞に置き換えた際の麦の生育、肥料節減効果確認」

オ「畝内施用等によるナス施肥基準の見直し」（下関）

カ「大豆の鶏糞施用による化学肥料の代替技術確認」（長門）

キ「水稻＋麦ほ場における鶏糞活用」（萩）

(2) 各作物における施肥改善の取組み実績

ア「れんこんの収量向上に向けた緩効性肥料の検討」(岩国)

- ・ 現行の一発肥料に変えて、生育後期に窒素溶出の多い緩効性肥料及びオキサミド入りの緩効性肥料の試験を実施
- ・ 鶏糞+尿素の被覆肥料(ユーコート)が単収では良い結果となった。
- ・ 同一のほ場で区を3つに分けて実証している。水口と排水口で生育に差がある等、同一ほ場内でも自然と収量差が発生する可能性があるため、次年度は調査箇所を入れ替えて検証する。

イ「水稻品種の肥料検討及び適正施肥量の確認」(山口)

- ・ 「きぬむすめ」に最適な肥料選定のため、慣行の「ハイユーコート582」と「ユーコート223」を比較した。
 - ・ 土性の粘性が違う3ヶ所で実証し、品質に差はなかったが、精玄米重が低くなったため、慣行の「ハイユーコート582」が適すると結論付けた。

ウ「ブロッコリー土壌診断に基づく施肥改善」(萩)

- ・ 令和元年、萩大島で多雨となり、ホウ素欠が産地全体で発生した。これを受けて土壌化学性を分析し、pHの改善、ホウ素入り肥料の導入を図ってきた。
- ・ 現状、産地全体でホウ素欠が発生するようなことは無くなったが、pHが低いほ場もあり、引き続き石灰資材の施用が必要である。

4 今後の普及活動に向けて

農業技術部の試験とも連携しつつ、情報共有を図る。

また、現場で新たに確認された問題について新規取組みを検討する。